

# ヒップホップの要素を用いた授業開発に関する研究

最終更新日：2025年12月8日  
教学共創マネジメントセンター  
特任講師  
馬場 洸志

## キーワード

・ヒップホップ型教育 ・ヒップホップ ・ラップ ・授業開発 ・教育方法

## 研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

### ＜ヒップホップ型教育(HHBE)とは＞

ヒップホップ型教育(HHBE)とは、**ヒップホップの要素を用いて授業内容を教えるという教育手法**で、2000年代初頭からアメリカで取り組まれ始め、実践者が増加しています。

ヒップホップは音楽のジャンルや、ダンスの一形態と誤解されがちですが、**ラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティ(壁画)の四大要素から構成される「文化」**です。また、ヒップホップはアフリカ系・ヒスパニック系アメリカ人がマジョリティを占めるため、HHBEも「有色人種のため」の教育手法と誤解されるかもしれませんが、**ヒップホップは複数の国の文化に適合し、地域事情に合った形でローカライズされてきているため、HHBEは人種や民族に関係なく適応可能であるとされています。**

サッカーや野球などの欧米由来のスポーツが日本の日常に浸透したように、**ヒップホップも日本の若者の日常に当たり前のように存在し、だからこそ、若者の興味関心を引くための大きなとっかかりとなり得る**と考え、私はHHBEに取り組んでいます



### ＜ヒップホップ型教育の例: Science Genius＞

#### 一番著名な実践: Science Genius

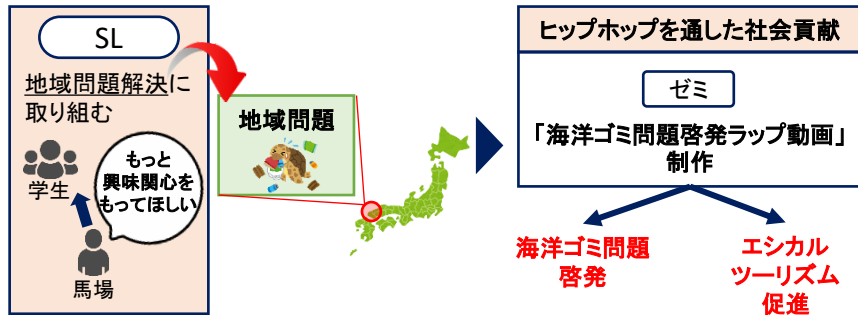
理科に興味・関心を持っていない高校生に、ラップを通じて、同教科への興味・やる気を向上させる取組。  
生徒は、理科に関連する用語を用いてラップの歌詞を書き、他の生徒と競い合う。  
用語の意味を理解し、より上質なラップの歌詞を書くために、生徒が勉強するようになるという仕掛け。



## 成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

### これまでの成果

HHBEの授業を開発・実践してきました。私の専門はサービス・ラーニング(SL)であり、SLは地域の問題解決に取り組むという特徴があります。  
実践を行っていた前任大学は下関に位置しており、その地域の問題＝海洋ゴミ問題にもっと興味関心をもってもらうため、「**ヒップホップを通した社会貢献**」というテーマのもと、地域問題解決に取り組んできました。



### 応用の可能性

## ヒップホップの要素を用いた 授業開発支援

## ヒップホップの要素を用いた授業の 学習効果測定支援

## これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

### ＜ラップ動画＞

2023年度:エシカルツーリズム促進

2024年度:海洋ゴミ啓発

2025年度:海洋ゴミ啓発

### ＜メディア＞

取材頂いた動画などを見て頂くと、取組の意図が分かりやすいと思います。

[テレビ山口](#)

[山口朝日放送](#)  
(その他)

[ネットメディア記事](#)  
[読売新聞オンライン](#)

### ＜論文＞

[総合的な学習の時間における新たな教育実践～ヒップホップ型教育～](#)

[教育方法としてのヒップホップ～Hip Hop Based Education～](#)

[クラウドファンディングをツールとする サービス・ラーニング実践の技法と課題](#)